



社 会 福 祉 法 人

るうてるホーム No.133

(後援会ニュース)

2015年4月1日発行



「苦難の3年間をどう歩むか」

常務理事 石倉智史

今年も四旬節（受難節）の時期になりました。3月から4月にかけては日本の学校や会社の年度の区切りであり、出会いや別れの時期でもあります。いつのころから4月スタートになったかと調べてみると、明治のころということですので、比較的新しい制度のようです。毎年思うことですが、自らの信仰を見つめなおす時期と年度の区切りをいつも重ねて考えてしまっていることがあります。共通する点としては、心穏やかではないということでしょうか。十字架への苦難の道を歩むことを知りながら、どういう日々を過ごしておられたのか。信頼していたであろう弟子たちに裏切られることがわかった時にはどんな思いであったのか。イエス様の苦しみを理解しようにもどうも理解できるはずもなく、ただ毎年のように「仕える、僕となる」ことをしっかりと反省させられている自分いることに気付くことしかできません。権威や位といったものにこだわっているわけではないにしても、寄りかかったり、ぶら下がったりしている自分を知ってしまい、時として嫌になることもあります。

またこの時期は、未来を見据えて新しい計画をたてる時でもあり、これまでしてきたことを振り返る時でもあります。多くの別れや出会いを通して喜びや悲しみを知る

こととなります。そして、時が満たされると日本では桜が咲き誇ります。実に受難から復活へという時期と不安と期待が入り混じった時期が妙にマッチングしていると感じるのは私だけでしょうか。さて、最近の新聞でも取り上げられていますが、介護保険制度が4月から大きく変わり、事業内容や報酬の見直しがあります。多くの事業が減収となり、次回見直しまでの今後3年間はまさにいばらの道となります。私たちは利用者と職員を守っていくことが最大の使命ではありますが、これからはよほどしっかりとした計画と運営をしなければ、それさえも危うくしかねないという危機感があります。しかし、3年を乗り越えられればそれでよいかといえば、決してそうではありません。今後10年間を考えていくと、介護の必要な高齢者の増加が避けられない事実がある中で、その介護を担う職員のなり手が減少し続けています。これをどこかで断ち切らなければ、状況はますます悪くなっていきます。これから始まる3年間は、利用者や私たちの未来を左右するといっても過言ではありません。イエス様の歩んでこられた道に従い、十字架を背負って歩かされているイエス様の姿をしっかりと心に焼き付けながら、美しい桜が咲く日の来ることを待ち望みたいと思います。

「私の生きがい」

ケアハウス利用者 市野 勝様

わたしは若い頃から、管理地でフナを釣るのが趣味で、早く定年がこないかと思う毎日でした。

釣れない折は淋しく、ある日友人にゲートボールをしてみないかと声をかけられ、はじめてみると、奥が深く、フナ釣りよりもおもしろみも増し楽しく、審判の資格もととり、今では後輩の指導にあたる毎日。

年を取るということは、淋しいもので振り返れば、いつのまにか私も91歳、光陰矢のごとしと云われます、正にその通り、年には負けず、ゲートボールは私の生きがいとして毎日頑張っています。

ゲートボールのよい点は、老若男女、誰でも気軽にできるスポーツ。

其一、決められた時間でむりのない運動ができる・

其二、男女をとわず5人一組で共同作業、助け合うことの大切さを学ぶ。

其三、移動する球の数字を忘れず覚え、之、ボケ防止に役立ち、年をとっても長く楽しめるスポーツ。

わたしもケアハウス入居して1年数カ月、何とか日常の生活になれかけた今日この頃です。環境にも左右されますが、職員の方々、また関わってくださる皆さんの接し方が、とても明るく優しい対応。わたしは一日の用が済めば、早く落ち着ける我が家に帰ろうと思う毎日です。毎日帰宅すれば安らぎをかんじます。

仲間の方たちに話をすると、其のような優しいケアハウスは少ないとのこと、いい所に入れたなと話してくれます。

これもイエスさまがお側におられ、見守ってくださるからでしょうね。

(市野さまは地域からの入居の方です)。



「神さまの愛」

ケアハウス利用者 林 啓子様

るうてるホームに入居させて頂きまして、二度目の新年を迎えました。何時の日が一人になれた、このホームに入居させて頂きたく思っておりました。

一昨年十月に竣工間もない新しいホームを見学させて頂きたく姪の車で、まだ地図にも載っていない頃で、不案内のため中々手間取り、つくことが出来ず千里から二時間余りかかりやっと着きました。疲れて体調が悪くなった夫は早々に車いすのお

世話になる始末で、まだ新しいホームに引っ越しをされて大変忙しい中、ご迷惑をおかけしました。話をしているうちに気分が悪くなり、病院へお連れくださり、入院することとなり、ご多忙な中、施設の方に大変お世話になりました。

十月の二十四日入院、検査の結果、急性肺炎で十月二十六日、三日足らずの命で八十七歳で召天いたしました。大阪教会より滝田先生がかけつけてくださり、夜十時に遺

体と一緒に大阪教会まで移動しました。真夜中であるにも関わらず、奥様も一緒に葬儀の打ち合わせをして頂きました。

二十七日は日曜日、二十八日は通夜、二十九日は葬儀と大勢の信徒の友に盛大な葬儀をして頂きまして感謝しております。天王寺教会の永吉先生の多大なるご配慮で、主人が親しくさせて頂いていた渡邊先生、市原先生からお話を頂くこともできました。慌ただしい一週間でしたが、皆様方に助けられて大変お世話になりましたこと、嬉しく思っております。

あまり突然の事で涙する間もなく、十二月十九日に四十余年間、住み慣れた千里を

離れて、このホームへ入居させて頂きました。終の棲家を与えられ、世のわずらわしさをさげ、日々の礼拝に出席し、み言葉を学び、恵まれた生活の出来る幸せを感謝しております。

「我らの国籍は天にあり」。

何時の日か、わたしも神さまの御国に招いて下さるその日まで、我がゆく道いつかになるべきは、つゆ知らねど・・・、いつもわたしたちと共にいてくださる神さまに感謝いたします。

(林様は日本福音ルーテル天王寺教会の会員です)。



「募金のご報告」

主のみ名を讃美いたします。

社会福祉法人うるてるホームは、2011年から2015年までに3千万円の募金を達成し、2015年度までに、ホームの全面移転を事業として推進するということを決意して参りました。

皆さまのご協力を頂き、最終の1年を残して募金は今、「2508万円」まで達成いたしました。皆さまの尊い「支えの手」を心から感謝申し上げます。目標3千万円まで、あと「492万円」です。どうか更なるご支援の手を頂けますようお願い申し上げます。

現在、ケアハウスのご入居者の内、ほぼ半数近くがキリスト者となっています。日本の人口に占めるキリスト者は1%という

総務部長 米田節子

話を聞いたことがありますから、50%という数字がいかに大きいかが分かります。このことで、他の宗教を大切にされている方へ、ご心配を与えるようなことがあってはならないと肝に銘じております。ご入居されている方々も、そのことを大切に下さっています。とはいえ、朝、どこからともなく響く讃美歌の歌声が、宗教を問わず、ご入居しておられる方すべての心を潤すものであったら、どんなにか素晴らしいことかと思いつつ、毎朝耳を傾けています。

女性会連盟（当時 婦人会連盟）の皆様のお祈りが、50年という時を経て、今もなおこの地に響いていることを覚えて頂ければ幸いです。

